

学校ムードの改善過程

—消極的自由から積極的自由へ—

生徒部

I 本校の雰囲気

本校は創立以来、「自由」をモットーにしてきた。創立時においては進取の気風に溢れ、積極的に活動し、かなりの成果が挙がっていたものと思われる。この伝統によって培われた自由、進取の気概がやがて、やわらかな、和やかな感じに変わって来た。その面ではまた別の意味おけるよい雰囲気が作られているものと思われる。この移り変りの変化は、学校が豊川から名古屋へ移転し、同時に入試選抜を抽薦にしたために、地域社会、生徒構成の両面が大きく作用したものと思われる。このやわらかなムードの反面、やや消極的な無気力さが目立ってきた。

これが更にだらしのない、放じゅうな悪い面もあらわれ、行動の積極性が薄れて来たように思われた。

II 校風改善の考え方

1. 集団指導を強化する。

生徒一人一人について、特に悪い面が多くあるということはないが、クラス全体、学校全体として、生徒の生活・活動が必ずしもよい方向に向っていない現状からして、利己主義を排し、集団としての効果をねらうようにした。

2. 正しい自由を伸ばし、不真面目な自由はいましめる。

「自由」の概念について、正しい自由と不真面目な自由と実感をもって区別するために、さまざまな場の具体にに応じて、つぎのように、いろいろな表現をもちいた。

- 根本の自由と枝葉の自由。積極的自由と消極的自由
- 生産的自由 ○建設的自由
- 集団的自由と個人的自由。自由と放じゅう

III 改善過程

1. 本年4月よりの実践記録を次の表にて示す。

実践記録

生徒会の活動	行事		学校側の活動
生徒会活動方針決定 生徒会新聞「協力」発行	4月	3年修学旅行 前期生徒会役員改選	生徒会執行部との話し合い
高体連加入希望調査	5月	生徒会予算集 遠足 中間テスト	中学「道徳」研究委員会*1 第1回校風調査 高校H・R研究委員会*2
高体連加入*6 掃除検査開始	6月	球技大会 本校研究会	花壇整備 中学「道徳」研究委員会 掃除 高校H・R研究委員会 生徒指導研究会議*3
金沢に勝つ会*7	7月	期末試験 バレー大会 1年林間学校	生徒指導研究会議
運動クラブ合宿	8月	中学臨海学校 金沢附属交歓競技大会	壁修理、ペンキ塗り、黒板塗りかえ

学校ムードの改善過程

文化クラブ振興	パン、牛乳業者交代*8 金沢報告会 パン、牛乳調査 文化クラブ実態調査	9月	教生実習 後期生徒会役員改選	生徒指導方針決定(教官会議) 放送事件処理*4 校風改善の集会*5 (スリッパ、軽布がけの協行、 大掃除、H.R.会食開始)	振興
	生徒会と生徒の緊密化 議会、委員会の流会防止 生徒会室整備	10月	2年奈良見学 体育祭 中間テスト	クラブ実態調査 生徒会執行部との話し合い 第2回校風調査	
	文化祭2日実施	11月	文化祭		

- 注 *1.2 中学の「道徳」、高校のHRロングタイムの実施を計画性のあるようにもっていく研究委員会、校長以下担任、関係各部教官(12~13名)
- *3 本校では隔週毎に研究会議を全教官でもつことになっている。このときに生徒指導に関係した問題を取り扱った。
- *4 金沢報告会における学校側の発言が運動クラブを重視して、文化クラブを軽視していると曲解して一部の生徒が翌日全校放送した。これを叱責し、一般の生徒には納得させた。
- *5 校風改善の主旨を説明し、具体的な実施方針を全校生徒に発表した。
- *6 本校は過去10年間、高体連加入を認めていなかった。
- *7 金沢交歓競技会に3連敗し、今年こそ勝とうという集会。
- *8 パン、牛乳が高いという理由で、生徒会が動き、業者を交代させ、大分安くなった。

2. 校風調査

学校の雰囲気や何か刷新する方向に持って行くべきであるという意見は、前々から教官の間にでていたことでもあり、本年の新生徒部内の話し合いや中学「道徳」研究会などからもそのような考え方が出され、生徒がどのように考えているかを、下のような質問を与えて無記名調査を行った。

校風について、下のことについて答えて下さい。
思っていることを卒直に書いて下さい。

- よいと思うところ
- 悪いと思うところ
- 今後ますますよい校風を作るにはどうしたらよいでしょうか。

この集計を次の表に示す。

校風についてよいと思うところ

事 項	高1B	高1A	高2A	高2B	高3A	高3B	計					
	男	女	男	女	男	女						
のびのびしている	6	2	3	3	1	5	2	1	1	2	29	
自由である	8	8	9	7	9	7	4	7	5	3	2	77
先生と親密	5	4	6	4	2	3	2	6	1	0	1	35
上,下級生親密	1	3	3	2	0	2	3	2	1	0	1	18
友人関係よい	0	1	2	2	2	1	4	0	1	0	2	16
男女間よい	1	2	0	1	1	1	2	0	4	3	4	23
なごやか 明朗	0	0	2	1	0	1	1	0	5	4	1	16
なし	2	2	3	2	8	4	10	4	5	6	4	53

その他数の少ないもの

勉強が自主的にできる。おとなしい、先生がよい、こまかいことをいわない、不良がない、形式的でない、家庭的、上品、ふんいきがよい、質素

校風について悪いと思うところ

事 項	高1A		高2A		高3B		計
	男	女	男	女	男	女	
自由すぎる	7	1	3	6	1	3	21
規則が守られない	6	1	1	1	2	4	15
消 極 的	1	0	1	3	2	2	9
責任感うすい	4	0	2	3	0	2	11
だらしない	10	2	3	3	2	1	21
はく力がない	0	1	2	0	2	5	10
協力しない	0	0	4	4	1	0	9
まとまりがない(集団)	2	0	6	5	0	0	13
おさえつけられる	0	0	2	0	1	1	4
生徒会に圧力をかける	0	0	2	0	1	0	3
こまかいことを注意しすぎる	1	0	1	0	0	0	2

その他数の少ないもの

実行力ない、高校生らしさなし、生徒会よくない、団体生活まずい、利己主義、上級生を尊敬しない、先生を尊敬しない、スジガネなし、中途半端、破壊の自由、逃避の自由、掃除、遅刻、放任主義、自主制なし、刺激なし、命令に不服従、自由のはきちがい、もっとしめてくれ、服装悪い、有名校たれ、視野がせまい、のんびり

この結果として、生徒が感じていることは、良い面としては、のびのびとして自由であるように解釈している。

悪い面として、良い面に附随した、自由すぎる、放しゅうであると感じている。

圧迫感をもつものはごく僅かである。

3. 指導方針の確立

学校ムードをどの方向に持って行くかは生徒の考え方を参照して考えたが、結論的には、研究会議を2回経て学校として望ましい方針を打ち立てた。

○ 教官の意志・指導方法の統一

生徒の指導に対しては全教官が同一態度、同一方法で臨むことが必要である。かなりの意見の対立もあったが、大体において統一された。

○ 力強い態度で指導する。

生徒の反対も予想されるが、無駄な不必要な論議を排し、しかし十分なPRもして強力に実施していく。

○ 担任の指導強化

指導責任を担任にある程度持ってもらい、ホームルームにおけるショートタイム・ロングタイムの運営に計画性をもたせ、指導効果を挙げようとした。

○ PRの徹底

自由に対する考え方を、機会あるごとに説明し、納得させるように努力する。

朝礼を利用したり生徒会執行部との話し合いなどを多くする。

○ 生徒の動向をよく把握する。

ホームルームを通じて担任から、生徒会を通じて執行部から、一般生徒から直接に、いろいろな方面からよく生徒の気持の動きをとらえていく。

○ 生徒会の強化

生徒会を一般生徒と遊離せず、積極的に活動させ、またその要求には最大限応ずるようにしていく。

○ クラブ活動の振興

クラブ活動を振興し、無気力さから脱却し、力強いムードをねらう。

4. 指導内容

(1) 積極的自由を伸ばすために

従来から生徒の希望の非常に強かったものも本校の実状、特殊性からして許可してなかったもの、また生徒にまかせられないとして断っていたものなども、生徒会の積極性を増すためには、相当程度許可を与えるようにした。

○ 高体連加入

豊川から名古屋へ引越して10年来禁止して来た高体連加入についても、生徒会の希望を容れて許可

した。

○ 生徒厚生

パン、牛乳が高いとの申し入れに対し、生徒が業者を探し、その業者に交代させた。教室が暗いという申し入れで教室の壁を塗りかえた。

生徒会室の整備も行った。

○ 生徒会の活動援助

クラブ活動には顧問教官の出席を義務づけた。議会、委員会にも顧問教官が必ず出席し、生徒の意見を直接聞き、また指導していく。

○ 生徒の建設的な意見が十分伝えられるような機構にする。

生徒会執行部との話し合いを多く持つように努力した。一般生徒もよいアイデアを持つ場合は直接生徒部関係教官に申し出るように指導した。

その他投書箱の設置についても目下考慮中。

(2) 放しゅうをいましめるために

集団生活の意義をよく知らし、規則・行動をより規律ある方向へ持っていった。

○ 届は厳格に

外出、遅刻、早退、欠席などの届を必ず出させ、理由、保護者印などを厳格にする。

○ 遅刻の防止

担任による指導を強化し、1時間目の先生の扱いを統一した。尚朝礼に遅れたときは生徒部が直接叱責する。

○ 下校時間厳守

クラブ活動などで教官が付添っている以外のものに関しては、日直教官が見廻って帰す。

○ 校内をきれいにするために、清掃に力を入れた。

モップをやめ、雑布がけにし、上履はスリッパに統一した。中庭には各クラス毎に花壇を作らせた。

○ 服装の端正

乱れた服装、華美な服装は規則の明文以外でも注意を与える。

3. 近代人としてのよい躰を身につけさせる。

○ 教官事務職員に話すときは礼をして、ことは正しく話す。

○ 外来者には礼をする。

○ 上級生には敬意をはらう。

○ 机の上には座らない。

○ 教室内では帽子をかぶらない。

○ 登下校に際しては先生に挨拶する。

○ 廊下は走らない。

○ 学校の登下校時には飲食店に入らない。

○ 先生が教室に入ったら起立をかける。

学校ムードの改善過程

Ⅳ 改善の成果

- (1) 生徒会が活発になった。
生徒1人1人の生徒会に対する関心が高まり、よい校風を作るために積極的な活動が行われ、その実績も顕著に現われてきた。
- (2) 生徒の規律を守る態度が特によくなくなった。
学校全体が引きしまり、生徒の生活態度にも緊張と気力が溢れているように思われる。
- (3) 校内の美化が徹底した。
以前に比べ床が見違えるように美しく、中庭にも花が咲き、学習環境が美しく整備された。
- (4) クラブ活動が盛んになった。
クラブ活動の意欲が盛り上がり、活気に満ちた気風が増してきたように思われる。行事も盛んになり生気が溢れている。

Ⅴ 生徒のうけとり方

- (1) 生徒会の動き
本校の校風を改善することについて、生徒会と学

校側の意見は完全に一致し、常に連絡、話し合いの上で行われて来たから、学校、生徒会協力一致の形がでている。生徒会執行部も全面的に改善に努力している。

- (2) 一般生徒のうけとり方
10月中旬に第2回校風調査を次のような質問を与えて無記名で調査した。

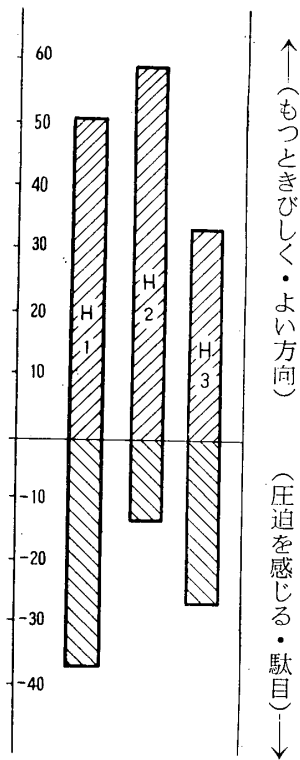
下の調査事項に対して思ったことをそのまま書いて下さい。

1. 最近の学校全体の雰囲気に対してどんな感じを持ちますか。
2. 更により校風を盛り上げていくにはどうしたらよいか。
3. 現在どんな点が悪い。悪い点をどうしたらよくしていくことができるか。
4. その他校風に対する感想

この結果をつぎの表に示す。

校 風 調 査 (その2)

段 階	事 項	H 1 A		H 1 B		計	H 2 A		H 2 B		計	H 3 A		H 3 B		計
		男	女	男	女		男	女	男	女		男	女			
もき びし しく とく	まだ甘い これ以上自由にしてはいけない もっときびしく まだ変な自由だ	4	1	5	1	11	4	1	4	0	9	4	0	1	0	5
よい 方向	積極的でよい 活気があってよい まとまってきた キリッとしている 全くいい きれいでよい 規則をしっかり守る	10	10	9	12	41	19	12	10	9	50	8	11	3	6	28
是 々 非 々	生徒会と生徒の結びつき強化 生徒会の充実 協力必要、 生徒会がよくなった。なごやか、 もっとPR必要 クラブ振興、利己主義を除く もっと積極的に(消極的) 中高の区別ない だらだらしている 自主性ない、服装しっかり、 上級生を尊敬しない、愛校心 ない、団結、学校と生徒がと け合う、まとまりない、教官 の不統一、線が細い、中学で 甘やかす	20	22	11	17	70	17	11	11	6	45	22	16	8	11	57
圧 迫 を 感 じ る	圧迫を感じる、反対者を増す、 先生が干渉しすぎる、おしつけ られている、きゅうくつ、きび しすぎる、先生がイニシャテ ィブをとりすぎる。	9	11	8	3	31	2	1	4	4	11	11	3	7	1	22
駄 目	先生と生徒が対立している 全く自由でない 教官の一方向的	6	0	0	0	6	0	0	2	0	2	2	1	1	1	5



この表から考えられることは大体次のようである。

(1) 短期間におけるかなり急激な変化であったにもかかわらず、全体として賛成者の率は予想外に多かった。

(2) 高1は批判する者が多い。

これは、一般にあって高1後期から2年初にいたる間は、何事によらず批判的である。こうした批判的傾向が、ここにも強く作用しているものと考えられる。(この傾向については昨年奈良での発表ならびに本校研究紀要第6集参照)

(3) 2年生は殆ど全面的に受け入れている。

このことは、生徒会の役員を全員2年生が占めているために2年としての自覚と責任に加えて生徒会と生徒との間が緊密であったものと思われる。改善過程の表の中の「放送事件」が起ったのも2年生であり、このとき2年全部に対して、1時間に亘り、事の是非について説明したことが結果的には好影響

を与えたかもしれない。

(4) 高3は方向には賛成だが手続には不満を感じる者が多い。

これは、高3は従来のいわゆる自由にいちばん長く浸っており、しかも伝統を担う立場に立とうと、半意識的にもせよ、しているからであろう。

Ⅶ 反省と将来の課題

一般にあって校風改善というような大仕事は、かんたんにできるものではない。しかし我々の場合は、短期間であったにもかかわらず、いわば見違えるほどの大きな結果をあげることができた。しかもその効果が、たんなる外面的な付焼刃ではないと我々は評価する。こうした成果を幸いにもたらしえた原因としては、つぎの諸条件が考えられる。

(1) 生徒自身の中から、従来の校風にたいする反省が動いていた。

(2) 校長以下全教官の考え方を一致させるために、しばしば討議と研究を重ねた。こうした考えの一致と確立された組織の下に、全教官が熱心にこれを推進した。

(3) 教官自体の指導理念が判っきりし、自身をもって生徒を指導することができた。

(4) 生徒会の執行部に有能な人材が集り、強力な機関車の役を演じた。

(5) 改善の高まりが、つぎつぎと順序よくタイミングに進行していった。

(6) 生徒の積極的な創意を十分に発展させたので、これまで眠っていたエネルギーが生き生きと発現してきた。

問題点。

改善の過程がどんどんと進行してきたため、心に批判をもつものも、十分にそれを発表する機会が少なく、したがって凡ての生徒の心の中まで深く耕されたとはいえない。これをどのように処理していくかが今後に残された課題である。